

# 日刊木材新聞

発行所 日刊木材新聞社  
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4  
編集・営業 ☎03-3820-3500  
FAX03-3820-3519  
総務・販売 ☎03-3820-3511  
FAX03-3820-3518  
http://www.n-mokuzai.com/  
eメール info@n-mokuzai.com  
購読料 1ヵ月 6,200円  
©日刊木材新聞社 2015  
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

## 100%フルプレカットでノーミス

### 2ラインで月40棟、6000㎡を加工

#### 北洲のサイディングプレカット

建設資材販売・住宅メーカーである北洲(宮城県黒川郡、村上ひろみ社長)のサイディングプレカットが好調だ。奇棟、入母屋、下屋、ダクト穴、出窓の屋根等を問題なく加工でき、100%フルプレカットでノーミスだという。

同社は現在、2ライン 裕規社長の「SPシステム」で月間約40棟、6000㎡を加工している。同社のサイディングプレカットは提携先であるシン・サク(愛媛県松山市、高杉

ルプレカットを普及させていくという。北洲がサイディングプレカットを開始したのは2012年12月

で、既に2年以上が経過した。東日本大震災の被災地で続いていた職人不足に対応する

ため月間10棟の加工だったが、約半年後の13



手加工なら約1週間の施工が約2日間で可能に

デイング施工が約2日間で終わることができるようになり、生産性が2倍に向上したという。その理由

なくあらゆる職人が不足し、住宅の施工期間が伸びていた。そこでプレカットがノーミスのために現場で加工する必要がない、雨の日でも施工できる、現場で大掛かりな加工スペースを必要としない、コンパクトな梱包のため搬入が簡単に狭小現

場でも問題なく開梱包後即工事を開始できるためだ。

同社の加工精度が高い理由を八重樫克徳専務は「サイディングフルプレカットの技術的なポイントは、現場採寸とCAD入力にある。シン・サクのSPシステムにはそのノウハウがある。採寸個所が少なくもかわらず、CADが単位で補正するために精度の高いプレカットとなっている」と話す。北洲とシン・サクでは随時サイディングプレカットの事業説明会、施工現場・工場見学会を実施しており、現在、大手ハウスメーカーや大手プレカット企業を含む多数の会社と技術提携を交渉中だという。

震災から4年が経過し、職人不足は当時ほどではないが、今後は少子高齢化が進み職人不足のみならずあらゆる産業で人手不足が聞

る。八重樫専務は「現場での騒音・ゴミ処理等の社会・環境への配慮・貢献、職人・人手不足への対応、生産性の向上などを考える」と、できるだけ早くサイディングフルプレカットを導入してノウハウを取得し、新しい事業を起すべきだと思

う」と話す。